

ヒト多能性幹細胞の培養・解析の標準化レクチャーシリーズ 第1回

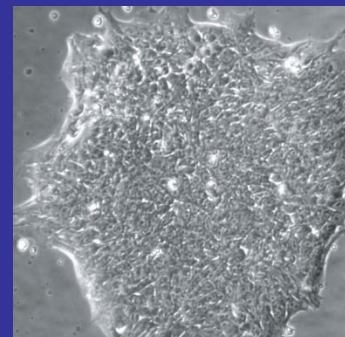
Xeno-Free培養 応用に向けた展開、課題と検証

2009年6月25日（木） 11:00 – 17:30

理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター

C棟1階オーデトリウム

(神戸市中央区・ポートアイランド、ポートライナー「先端医療センター前」駅下車)



ヒト多能性幹細胞(ES・iPS細胞)は再生医療・創薬や薬剤毒性検定などへの応用面で大きく期待されています。最近の急速な技術進展を受け、臨床応用をも見据えた研究段階では、異種成分不含(Xenogeneic Free)の培養システムの必要性が論じられています。今回は、現時点での達成度、有用性を総括するとともに、海外の取り組みも紹介します。さらに、今後の課題について研究者と企業との間で自由討議を交え、実践面を中心に考えていきます。

Program

臨床応用を見据えた培養の異種成分不含化を企業と研究者で一緒に考える

第1部 11:00-12:20 基本培養システム

異種成分不含(Xenogeneic Free)培養システムの使用法とその期待(FDA指針下の米国幹細胞臨床応用)
(Joydeep Goswami, Life Technologies)
ヒトES細胞のXeno-free維持培養システム: ヒト型マトリクスの利用とコツ (笹井芳樹、理研CDB)

第2部 13:10-15:00 臨床応用をめざした培養法開発

ヒト多能性幹細胞の異種成分不含(Xenogeneic Free)培養システムの標準化を目指して
(阿久津英憲、国立成育医療センター)
総合討論 “Xeno-free cultureはどこまで必要か?どの程度現実的か?”
ミニレクチャー: 松山晃文(先端医療センター)、パネルディスカッション: 文部科学省プロジェクト研究者ほか

<15:00-15:50に意見交換会(茶話会形式)を行います>

第3部 15:50-16:30 細胞解析の標準化技術

Single Cell Gene Expression Analysis on SOLiD3 System (Michael D. Rhodes, Applied Biosystems)

第4部 16:30-17:30 ミニ 実演デモ

ヒト多能性幹細胞の顕微鏡像、継代方法(iPS細胞)の実演 (阿久津英憲 他)

主催: 独立行政法人 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター、バイオリソースセンター

共催: 京都大学iPS細胞研究センター、Applied Biosystems、Life Technologies/Invitrogen、
知的クラスター創成事業「ヒトES細胞利用の安全性技術確立によるパーキンソン病細胞治療の実現化」
先端医療センター研究所

参加費無料

幅広い研究・開発者のご参加を歓迎いたします。

参加申込みは、<http://www.cdb.riken.jp/xenofree/>をご参照の上、電子メールでお願い致します。

【お問い合わせ】

理化学研究所 神戸研究所 研究推進部 レクチャーシリーズ担当 Tel: 078-306-3010 E-mail: xenofree@cdb.riken.jp
Invitrogen, Japan 松岡志帆 Tel: 03-5730-6512 E-mail: shiho.matsuoka@invitrogen.com